

## 管理職研修

講師

助手

生徒 玉置

生徒 清水

舞台、とある教室

椅子が2脚

生徒が座っている

音、チャイム

照明、舞台全体

講師登場

玉置

起立。礼。着席。

講師

起立。礼。着席。

二人

：

講師

管理職研修も、今日で75日目になりました。

皆さん、もう、会社に戻りたくなくなってるんじゃないでしょうか。

まあ、その前に、最早、あなたたちの居場所は無くなってるかもしれませんね。

そんなことは気にせず、今日も頑張ってください。

75日目の今日は、正しい日本語の使い方です。

社会人といつても、いい加減な日本語を使う人がたくさんいます。

正しい日本語は、良好な人間関係を構築する上で、とても重要な要素です。

そして、皆さんは、入社間もない若い子に、正しい日本語を教えていかなければならないと

いう責務もあります。

ということで、早速、講義の方に入りたいと思います。

まずは、目上の人に対する言葉遣いです。

私の後に、続けてください。

講師

お疲れさまです。

二人

お疲れさまです。

講師

何かやることあるつか。

二人

何かやることあるつか。

講師

マジつか。

二人

マジつか。

講師

：マジつか。

二人

マジつか。

講師 …マジっすか。

二人 マジっすか。

講師 やべえっすね。

二人 やべえっすね。

講師 グッド。

二人 マジっすか。

二人 マジっすか。

講師 …

二人 ちそうまつす。

二人 ちそうまつす。

講師 まあ、良いでしょう。

今のが、頻繁に使ってあろう目上の人に対する言葉遣いです。

「マジっすか。」が、まだ少しきこえない感じがあります。気をつけてください。

「マジっすか」がきこえないのは、やはり、目上の方が、必ずしも優秀ではないというロスジエネ世代だということも原因かもしれませんが、その辺は、割り切って考えるようにならなければいけません。

講師 そうですね。やはり、モデルがいた方が良いですね。

お願いします。

中津、赤ふん一丁で登場。中央に立つ

講師 彼が、あなたたちの先輩とします。

やってみましょう。

講師、中津を見て

講師 マジっすか。

はい。

二人 マジっすか。

講師 良い感じ。

(中津を見て) マジっすか。やべえっすね。

二人 マジっすか。やべえっすね。

講師 良い感じ、良い感じ。

今の感じを忘れないでください。

おそろくだけど、下に見てたと思います。でも、下に見ても良いんです。

マジで驚いているという雰囲気を出せればOKなんです。

中津、退場しようとする

講師 すみません、まだそのままです。

中津、舞台中央に立つ

講師 それでは、続けていきます。

(中津を見て) ワンチャン、ありつすね。

二人 …

講師 はい。

二人 ワンチャン、ありつすね。

講師 (中津を見て) ワンチャン、ありつすね。

二人 ワンチャン、ありつすね。

講師 グッド。

アクセントを間違えると、王貞治さんや、犬と勘違いされてしまうので、アクセントだけは、くれぐれも気をつけるようにしてください。

後、これは知っておいて欲しいのですが、この言葉を使った時、基本、ワンチャンありません。

助手 …

講師 (中津を見て) 無しです。

ありがとうございます。

中津、退場

講師 次は、上司とランチに一緒に行った時によく使われる言葉です。

私の後に、続けてください。

講師 自分の家、農家なんで、秋に米送ります。

二人 自分の家、農家なんで、秋に米送ります。

講師 …自分の家、農家なんで、秋に米送ります。

二人 自分の家、農家なんで、秋に米送ります。

講師 ちよつと、一人ずつやってみようか。

あなた(清水)

清水 自分の家、農家なんで、秋に米送ります。

講師 あなた(肇)

玉置 自分の家、農家なんで、秋に米送ります。

講師 ひよつとして、あなたの家、農家じゃないのかな。

玉置 …そうですね。

講師 何屋さん。

パン屋さん。

玉置 いや

講師 パン屋さんだったら、毎朝、パンを送れば良いと思う。

玉置 特に商売やってないんですけど。

講師 なるほど。

次いきます。

続けてください。

講師 自分 ツナ缶と納豆があれば、しばらく生きていけるつす。

一人 自分 ツナ缶と納豆があれば、しばらく生きていけるつす。

講師 グッド。

社会人として大切なのは、謙虚さです。

管理職であれば尚更です。

今の発言で、部下の子も、この人に付いて行ったら間違いない。そう思はずです。

玉置 すみません。

自分、納豆駄目なんですけど。

講師 なるほどね。

それじゃあ、納豆に変わるものを、みんなで考えましょう。

玉置 卵、はどうですか。卵かけ飯とか。

講師 栄養価高すぎるかな。

清水 モヤシは。

講師 モヤシは良いかもね。

見た目もモヤシみたいだね。

それじゃあ、こうしましょう。

ツナ缶を、めんつゆ。納豆を、夢。

清水 めんつゆと夢ですか。

講師 いつの時代もそうですが、夢は大事です。

夢という言葉彙を、良いタイミングでぶち込むと好印象です。

それでは、やってみましょう。

講師 自分 めんつゆと夢があれば、しばらく生きていけるつす。

一人 自分 めんつゆと夢があれば、しばらく生きていけるつす。

講師 自分 めんつゆと夢があれば、しばらく生きていけるつす。

一人 自分 めんつゆと夢があれば、しばらく生きていけるつす。

講師 素晴らしい。

次行きます。

講師 自分 同じで良いつす。

一人 自分 同じで良いつす。

講師 ∴

ちょっと、状況が分かってないみたいですね。

これは注文の時です。

注文の時は、非常に難しいものがあります。

提供されるタイミングを考えなければいけません。

結果、同じで良いつす。この管えが、最も適切な管えとなるでしょう。

実際に、先輩のモデルがいた方がやりやすいでしょうね。

お願いします。

講師 中津、赤ふん二丁で登場。中央に立つ  
自分、同じで良いつす。  
二人 自分、同じで良いつす。  
講師 モデルに寄り添って

二人、中津の傍で

講師 自分、同じで良いつす。  
二人 (中津に) 自分、同じで良いつす。  
講師 グッド。  
部長 そのスーツ、どこで買ったんつすか。  
二人 部長 そのスーツ、どこで買ったんつすか。  
講師 部長 そのスーツ、どこで買ったんつすか。  
二人 部長 そのスーツ、どこで買ったんつすか。  
講師 グッド。  
ありがとう。

中津、退場

講師 どんどん行きます。  
僕 ウーロン茶で。  
はい。  
二人 僕 ウーロン茶で。  
講師 一人ずつ行きます  
(清水に) 僕 ウーロン茶で。  
清水 僕 ウーロン茶で。  
講師 (玉置に) 僕 ウーロン茶で。  
玉置 僕 ウーロン茶で。  
講師 僕 ウーロンティーで。  
玉置 僕 ウーロンティーで。  
講師 うんうん、あなたは、ティーの方がいいね。  
緑ティー。  
玉置 緑ティー。  
講師 良い感じ、良い感じ。  
僕 ティーショットで。  
玉置 僕 ティーショットで。

講師、馬鹿にした様な感じで吹いて笑う。

講師 良い感じ、良い感じ。  
どんどんいきましょう。  
次は、歓送迎会で良く使う言葉です。

講師 自分、どちかかって言うと、二次元なんで。

二人 自分、どちかかって言うと、二次元なんで。

講師 …一人ずついつてみましょう。

まずはあなた(清水に)

ハンカチ持つてる。持ってたら、ハンカチで、おでこの汗を拭きながら

清水 自分、どちかかって言うと、二次元なんで。

清水 自分、どちかかって言うと、二次元なんで。

講師 もっとねつとりど。

清水 自分、どちかかって言うと、二次元なんで。

講師 もっと。

清水 自分、どちかかって言うと、二次元なんで。

講師 グッド。

じゃあ、次あなた。

玉置 自分、ゴリゴリの、二次元なんで。

講師 …自分、ゴリゴリの、二次元なんで。

講師 もっとゴリゴリど。

玉置 自分、ゴリゴリの二次元なんで。

講師 もっと。

玉置 自分、ゴリゴリの二次元なんで。

講師 良い感じですよ。

大分券囲気が出てきました。

あなた、もっと、ゴリゴリ言って、大丈夫ですからね。

更に、飲み会では、若い子が、盛り上げ係りになることが多いですが、その子がもじもじしている時の定番ですよ。

私には難しいので、その道に長けている人を呼びました。

お願いします。

### 中津、登場

中津 自分、脱いでも良いつすか。

講師 はい。

二人 自分、脱いでも良いつすか。

中津 自分、脱いでも良いつすか。

二人 自分、脱いでも良いつすか。

講師 良い感じですよ。

先程も言いましたけど、夢という言葉の効果的に用いてみましょう。

お願いします。

中津 自分、脱ぐのが、夢だつたつす。

二人 自分、脱ぐのが、夢だつたつす。

中津 自分、脱ぐのが、夢だつたつす。

二人 自分、脱ぐのが、夢だつたつす。

講師 グッド。

良い感じで最低です。

講師 (中津に) ありがとう。

中津、退場

講師 飲み会では、腹を割って話すことも大事になります。  
心を裸にして、コミュニケーションを取っていきましょう。  
最後に、まあ、今回の研修の中でも、最も大事なところと言っても過言ではないと、私個人は思っています。  
プレゼンに成功し、大きな仕事を手にし、会社に戻った時に使う言葉です。  
この発言によって、会社の士気が一気に上がります。

講師 ゲッツ。

一人 ゲッツ。

講師 立ってください。

私の動きと同じように。

講師 ゲッツ。

一人 ゲッツ。

講師 そのまま。

講師、一人の姿勢を直す。おもしろおかしく。

講師 そんな感じです。

それではやってみましょう。

ゲッツ。(普遍に)

一人 ゲッツ。(各々、先ほど直された姿勢で)

講師 良い感じです。

士気が一気に上がります。

講師 最後に。

最近よく耳にする、言葉です。

さっきの姿勢で、大きな声で言ってください。

三代目シエイ、ソウル、ブラザーズ。

はい。

一人 三代目シエイ、ソウル、ブラザーズ。

講師 四代目シエイ、ソウル、ブラザーズ。

一人 四代目シエイ、ソウル、ブラザーズ。

講師 五代目シエイ、ソウル、ブラザーズ。

一人 五代目シエイ、ソウル、ブラザーズ。

講師 素晴らしい。

上司も部下も、あなたに対する尊敬がきつと高まることでしょう。

音、チャイム

講師 時間ですね。  
今日はここまでです。  
玉置 それでは、また明日。  
起立、礼、着席。  
講師 起立、礼、着席。

講師、退場  
暗転

清水 三代目シエイ、ソウル、インナーズはどこで使ったの？  
玉置 分かんねえよ。

了



## 俺たちの会社 2019

津村  
中谷

舞台 空き地

照明 全体

舞台上 中谷が立っている

遅れて、津村が登場

津村 悪い悪い。遅くなった。  
中谷 大丈夫です。  
津村 待ったか。  
中谷 今来たところです。  
津村 …  
今は、来てないよな。  
今は、今だから、今は、来てないよな。  
え 今来たの。  
中谷 あ、ああ、すみません。  
ついさっきですね。  
ついさっき来ました。  
津村 今つて、今だよな。さっきは今じゃないんだよな。  
え ええ。わかんない。  
中谷 あ、津村さん、すみません。  
俺が間違えました。  
津村 え、間違えたの、今、さっき。どっち。  
中谷 間違えたのも、さっきになりますね。  
すみません。俺が悪かったんです。  
ナースにならないでください。  
津村 あ、すまん。  
中谷 いえ。  
それより、何かあったんですか。  
津村 え、どうして。  
中谷 時間に厳しい、津村さんが遅れるなんて。  
津村 ああ、出がけに部長に呼ばれてな。  
中谷 …  
何か、あったんですか。  
津村 ああ、いや、大したことじゃない。  
中谷 津村さん。

津村 本当に大したことじゃないんだ。

中谷 津村さん。

津村 …

中谷 部長に何を言われたんですか。

津村 …

中谷 津村さん。

津村 …日本には、本当に野生のオオカミはいないのだから。

中谷 …津村さんは、何で答えたんですか。

津村 正直に答えたよ。

いません。

1900年代前半に、絶滅したと言われてますってな。

中谷 …大丈夫だったんですか。

津村 まあ、何とかなるだろう。

中谷 津村さん。

津村 …

中谷 正直に言ってください。

本当にそれだけだったんですか。

あの部長がそれだけで済ますなんて、俺には思えない。

津村さん、本当のことを言ってください。

本当に（それだけだったんですか）

津村 そうか。

絶滅したのか。

分かった。

うん、ありがとう。

それだけだったよ。

中谷 嘘だ。

津村 嘘じゃない。

中谷 嘘だ。

あの部長が、それで済むはずがない。

津村さん、正直に言ってください。

俺にも何かできることがあるかもしれない。

津村 お前に言っても、どうにもならないよ。

中谷 それでも、それでも、俺には本当のことを言ってもらいよ。

俺と津村さんの仲じゃないですか。

津村 …

中谷 …

津村 じゃあ、何故、千代の富士はウルフと呼ばれていたんだって。

千代の富士は1991年に引退したんじゃないのだから。

元シヤイアンツ監督の高橋正伸も現役時代、ウルフと呼ばれていたんじゃないのから。

てことは、1990年代も、2000年代にも、ウルフは存在してんじゃないのから。

中谷 …

屁理屈だ。

津村 そんなの屁理屈だ。  
…  
中谷 津村さん、そんなの屁理屈じゃないですか。  
津村さん、何とか言ってくさい。  
津村 …  
中谷 津村さん。  
津村 中谷。それが、会社つてもんだ。

音楽  
照明、夕日

津村 会社つてのは、そんなものなんだ。  
中谷 はい。  
それより、話つてのは。  
津村 そうだな。  
とりあえず、座れよ。  
中谷 …  
どこに、ですか？  
津村 地面に。  
中谷 あ、地面ですか。  
津村 ベンチなんて、どこにもないぞ。  
中谷 ええ。  
津村 座れよ。  
中谷 …はあ。

中谷、座る

中谷 津村さんは、座らないんですか。  
津村 (軽く笑って) スーツが汚れるだら。  
中谷 …そうですね。

津村、たばこを探すような素振り、衣服のポケットを軽く叩く

中谷 タバコですか。  
俺ので良かったら。  
津村 いや。  
中谷 遠慮しないでくださいよ。俺と津村さんの仲じゃないですか。  
津村 いや、本当違っただ。  
中谷 津村さん。  
津村 ビスケットを、ビスケットを増やしてるんだ。  
中谷 …増えるんですか。  
津村 …

中谷 増えるんですか。津村さんのポケットは、ビスケツトが増えるんですか。  
津村 …増えないよ。  
粉々になるだけだ。それを増えたつて言ひなら、増えることになるが、全体量は、変わらんよ。  
中谷 …  
津村 そんなことはどうでも良いんだ。  
中谷 先に、俺の話を聞いてもらつても良いですか。  
津村 ああ、構わんよ。  
中谷 実は、俺、気付いたことがあつて。  
津村 忘れる。  
中谷 …  
津村 中谷、お前は何も気づいていない。  
今ならまだ間に合ふ。  
何も見なかつたことにするんだ。  
中谷 しかし  
津村 中谷、俺は、お前には俺と同じようになつて欲しくない。  
だから悪いことは言わん。何に気づいたか分からないが、そんなことすぐに忘れるんだ。

中谷 立ち上がる

中谷 津村さん。  
津村 中谷。  
中谷 …  
津村 津村さんは最近社食を使つてますか。  
津村 中谷。  
中谷 俺は相変わらず社食を使つてるんですが、  
津村 中谷。  
中谷 良いじゃないですか。  
俺が津村さんに憧れて何が悪いんですか。  
俺の中では、津村さんは、あの頃のままの津村さんですよ。  
津村 俺は変わったよ。  
中谷 何も変わつてませんよ。  
津村 津村さんは何も変わつてなんかいない。  
津村 変わったんだよ。  
中谷 …  
津村 俺は変わったよ。  
社食だつて使つてないし、かと言つて、弁当だつてわけでもない。  
中谷 じゃあ、昼は何を食へてるんですか。  
津村 新聞紙を食つてる。  
中谷 新聞紙。  
津村 ああ。  
俺は、新聞紙を食つてるよ。

中谷 …  
津村 俺は変わっちゃったよ。  
中谷 そんなことありませんよ。  
津村さんは、津村さんのままです。  
だからこそ、津村さんには知っておいて欲しいんです。  
津村 中谷。  
中谷 津村さん。  
津村 …俺以外の奴には。  
中谷 言つてません。  
津村 誰にも言うな。  
中谷 もちろんです。  
津村 …なんだ。  
中谷 俺は相変わらず、社食を利用してるんですけど、今年の夏限定メニューなんですけど、  
津村 夏限定メニュー、まだやってるのか。  
中谷 今週いっぱいです。  
津村 そうか。  
中谷 その夏限定メニューなんですけど。  
津村 冷やし中華か。  
中谷 分かりますか。  
津村 分かるよ。  
で、その冷やし中華がどうしたんだ。  
中谷 はい。冷やし中華なんですけど、最初から掛ってるんです。  
津村 …  
中谷 マヨネーズが最初から掛ってるんですよ。お好みじゃなく、最初から掛ってるんですよ。  
津村 …  
中谷 津村さん。  
津村 中谷。  
中谷 津村さんは納得できますか。  
俺は、到底納得することができない。  
津村 …  
中谷 何か言つてくださいよ。  
津村さん、何か言つてくださいよ。  
津村さん。  
津村 中谷。それが、会社つてもんだ。

音楽

照明、夕日

津村 会社つてのは、そんなものなんだ。  
中谷 はい。  
津村 お互い、上手いこと行かないもんだな。  
中谷 津村さん。

津村 そんな落ち込むな。  
中谷 落ち込んでなんかいませんよ。  
落ち込むのは、祝日が週末と被った時。  
津村さんにそう教えられましたからね。  
津村 中谷。  
中谷 はい。  
そうだ。  
俺、津村さんに言わなきゃいけないことがあったんですよ。  
津村 なんだ。  
金を貸してくれるのか。  
中谷 え。  
津村 あ、いや、何でもない。  
忘れてくれ。  
中谷 …はい。  
津村 なんだ、言わなきゃいけないことか。  
中谷 あ、はい。  
今度、会社の俺の机の引き出しで、朝顔を育ててみようと思ってるんです。  
津村 …  
中谷 息子から種を貰いましたね。  
どうしようかと思っただんですけどね、せつかく息子から貰った物だし、何とかしたいと悩  
つて。  
津村 …  
中谷 津村さん。  
津村 中谷、悪いことは言わん。  
やめとけ。  
中谷 どうしてですか。  
津村 …  
中谷 津村さん、どうしてですか。  
津村 会社の机の引き出しで、朝顔を育てる。  
中谷 はい。  
津村 馬鹿げてる。  
中谷 …  
津村 中谷、悪いことは言わん。  
止めるんだ。  
今ならまだ間に合う。  
中谷 やめませんよ、俺は。  
何言ってるんですか。  
引き出しの中に土は張ったし、水だって、アクアクラスが会社にはある。  
止める理由なんて、どこにもないじゃないですか。  
津村 そういらんことじゃないんだ。  
中谷 津村さん、俺に言ってくれましたよね。  
中谷、思ったことは何でもやってみろ。失敗しても構わない。お前の中のチャレンジャー気

持ちが、何より大事な事なんだ。  
思ったことは何でもやってみる。そう言ってくれただやないですか。  
津村 それとこれとは話が違う。  
中谷 どう違つて言うんですか。  
津村さん、どう違つて言うんですか。  
津村 …  
竿は買ったのか。  
中谷 竿。  
津村 朝顔の蔓を絡ませる竿だ。  
中谷 …まだ、です。  
津村 やめとけ。お前には無理だ。  
中谷 どういうことですか。  
津村 分からないのか。  
中谷 分かりません。  
俺には、さつぱりわからないですよ。  
津村さんの言つてゐることも、津村さんが何に怯えているのかも。  
津村 俺が怯えてゐるだけ。  
中谷 怯えてゐるじやないですか。  
津村 昔の津村さんなら、おう。やれやれ。中谷、思い切つてやれ。そう言ってくれたはずだ。  
津村 …朝顔が成長して、竿を立てる。  
そうしたら、その引き出しは、開けつ放しになるということだぞ。  
中谷 聞きたくありませんね。  
あなたの言つた通りだ。あなたは、もう昔のあなたじやない。  
今のあなただ。今あなただ。  
津村 引き出しは閉めなきゃいけないんだ。  
中谷 …  
津村 引き出しはな、閉めなきゃいけないんだよ。  
中谷 津村さん。  
津村 会社つてのは、そんなもんなんだ。  
中谷 津村さん。  
津村 中谷、それが会社つてもんなんだ。  
中谷 …  
津村さん、すみません。  
津村 今あなたか。そうかもな。  
今の俺は、昔の俺じやない。今あなただな。

音楽

照明、夕日

曲中、中谷が必死で津村に頭を下げる

津村、中谷の肩に手をやる

津村、退場

中谷、うなだれる

暗転

丁



## 面接

面接官

清水

照明、ブル暗

照明、全体

舞台上、椅子に座った面接官。対面に誰も座ってない椅子

清水、登場

面接会場のドアを開ける

しばしの間

面接官

::

清水

::

面接官

君、ドア開けて、何で入って来ないの。

清水

::

いや、ちよつと不安かなつて。

面接官

面接を受けるのに、不安な気持ちもわかるけど、ここまで来て、更にドア開けちやつてるからよ。

清水、気持ち悪く笑う

面接官

何？何？

清水

あ、いや、昨日の夜、何食べたつて思つて、何食べたか分からないやつて。

面接官

別におかしくはないよね。

今、考えることでもないし。

清水

何も食べてないや。

面接官

食事はちゃんと摂った方が良いね。

とにかく、もう、ドア開けちやつたんだから、腹決めて、入つて、面接しよう。

清水

はい。

失礼します。

清水、入る直前に

清水

あ、〇時前に水飲みました。

面接官

健康診断受けるみたいだね。

清水

失礼します。

清水、椅子に座る

面接官 それじゃあ、よろしくお願ひします。

清水 お願ひします。

面接官 清水司さん。

清水 はい。

面接官 うちでバイトしたいと。

清水、笑う

面接官 どうした。どうした。

清水 健康診断受けるみたいだねって、最高。本当だ。

バイトの面接受けるのに、健康診断受けるみたいって、最高。

面接官 うん、いいや、落ち着こう。

清水 すみません。

面接官 えくと、履歴書見ました。履歴書上は、特に問題ない感じですね。  
色々バイトはしてるみたいだけど。

清水、笑う

面接官 何、何、今度は何。

清水 一昨日も、水飲んだ。

面接官 そりゃあ、生きてれば、水飲むよね。

そんなウケなくても良いんじゃないかな。

清水 すみません。面白くて。

面接官 俺は全然面白くないよ。

清水 すみません。

面接官、履歴書を見る

面接官 郵便配達とかやってたんだ。

清水 はい。

面接官 結構大変そうだね。

清水 そうですね。

自分、バイクで配達してたんですけど。風が。風が。風がつて。

面接官 特に笑えないけどね。

清水 つめて。風つめてつて。風の野郎、つめてつて。

面接官 何が面白いのか、さっぱりわからないね。

清水 この野郎。この野郎。

ダンカンこの野郎つて。

面接官 似てないね。

清水 今のは、ちよつと盛ったつていうか、嘘なんですけど。

面接官 どつちでもいよ。

清水 楽しく、仕事させてもらいました。

面接官 一人で楽しむの、得意そうだもんね。

清水 どうも。

面接官 別に褒めてるわけじゃないんだけど、  
ちよつと気になつてることなんだけど、前の郵便配達は何でやめたんですか。

清水 あ、ああ。  
なるほど。  
辞めた理由ですね。  
なるほど。  
マリファナ吸つて良いですか。

面接官 駄目だね。駄目に決まつてるでしょ。

清水 え、何、普段から吸つてるの。

面接官 いや、吸つたことないです。

面接官 じゃあ、何で言ったの。

清水 良くみんなに、キマツてるるみたいだねって。

面接官 あ、ああ。

清水 やつた。うけた。

面接官 うけてないよ。  
郵便配達、何で辞めたの。

清水 なるほど。なるほど。  
辞めた理由は、あの、契約切れです。ウケる。

面接官 ウケないよ。  
契約切れか。なるほどね。  
後気になつてることだけど、人間関係はどうなの。

清水 人間関係ですか。  
母と妹と三人暮らしです。

面接官 そういふことじゃないんだ。

清水 女の中に、男が一人だから。  
髭。髭つて。この髭つて。

面接官 だから、全然面白くないから。  
そつちじゃなくて、今までの職場で、人間関係は田舎だつたかつて。

清水 なるほど。なるほど。  
勘違い。勘違いしちやつた。  
恥ずかしい、めつちや恥ずかしい。  
わるそな奴は、だいたい友達。

面接官 嘘つかなくて良いよ。

清水 口ずさんで配達してました。

面接官 やつば、そつちに憧れちやうんだ。

清水 でも、便利だつて、結構仲良いつて言うか。

面接官 便利そうだもんね。

清水 喋ればむかつくつて。喋るなつて。

面接官 だらうね。

清水 良くひんたされて。  
面接官 笑えないよ。  
清水 どうなの。うち、結構女の子も多いから、大丈夫。  
清水 あ、大丈夫だと思います。  
面接官 家でも、母親と妹なんで。  
清水 髭髷つて。  
面接官 それはどうでも良いけど。  
清水 まあ、それなりに付き合っていてくれれば良いんだけど。  
面接官 はい。  
清水 わかりました。  
面接官 じゃあ、明日か明後日でも連絡しますんで。  
清水 お願いします。  
面接官 あ、前の会社でのあだ名あったんですけど、  
ストーリーつて。ウケる。  
面接官 不採用だね。

暁転

了

## イモ売り

清水  
肇  
寺田

照明 全体

舞台上、肇が、袋的なものを足元に置いて、立っている  
清水、登場

肇

∴

清水、肇の存在を確認する  
肇、睨んでいる

清水

∴何。

肇

芋く、∴ジャガイモ。

清水

何。

肇

芋く、∴ジャガイモ。

清水

何ですか。

肇

お買い上げですか。

清水

いや、買わないですけど。

肇

芋く、ジャガイモ。

清水

あの、

肇

何ですか、お買い上げですか。

清水

いや、買わないですよ。

肇

何ですか。

清水

芋を売ってるんですか。

肇

いけませんか。

清水

いや、別に良いんですけど。

肇

焼いてるとかではないんですか。

清水

はい。焼いてません。

肇

生のジャガイモですか。

清水

私、焼いてるって言うてました。

肇

言うてないですけど。

清水

ですよ。

肇

芋く、∴ジャガイモ。

清水

あの、

肇

お買い上げですか。

清水

買わないんですけど、ちよつと聞いて良いですか。

肇 まあ、今、ビジネス中なんで、邪魔にならない程度で。  
清水 ビジネス中なんですね。  
肇 見ればわかるでしょ。  
清水 すみません。  
一日で、どれ位売れるんですか。  
肇 そうですね。  
多い日で、一日500個位ですかね。  
清水 そんな売れるんですか。  
肇 まあ。  
ビジネスなんで。  
清水 はあ。  
ちなみに、お値段、いくら位なんですか。  
肇 1個350円ですね。  
清水 そんなするんですか。  
ジャガイモですよ。  
肇 はい。  
その辺のスーパーで売ってる、ジャガイモです。  
清水 言っちゃった。  
特別感はないんですね。  
肇 特別感。  
あなた、こういう状況で、いつもジャガイモ買ってます。  
清水 あ、いや。  
肇 何たる。  
この状況で、俺からジャガイモ買う。  
それだけで、特別なんじゃないかな。  
清水 何か腹立つな。  
意外に正論に聞こえるしな。  
肇 もう良いですか。  
ビジネス中なんで。  
清水 あ、すみません。  
あの、商品ってどこにあるんですか。

肇、袋を持ってくる

アルミホイルに包まれている商品を出す。

清水 焼いてないんですよ。  
肇 焼いてませんよ。  
フレッシュです。  
清水 フレッシュですか。  
何たる、言い方腹立つな。  
何でアルミホイルなんですか。  
肇 え。何でアルミホイル何ですか。

あなた スーパーで 何でラップなんですかって聞くんですか。  
清水 むかつくわ、本当むかつくわ。  
肇 すみません。ビジネス中なんで。  
清水 もう良いですか。  
清水 あ、すみません。

清水、少し遠ざかる

肇 芋、…ジャガイモ。  
清水 全然売れねえじゃん。  
500個なんて、絶対嘘だろ。  
肇 今日はもう、400以上売ってるんで。  
清水 独り言だから。  
肇 芋、…ジャガイモ。

寺田、袋のような物を持って、不敵に登場  
肇と寺田、目が合う。  
寺田、肇を見て、馬鹿にした様な笑み  
下手側に陣取り

寺田 芋、…ナガイモ。  
清水 ナガイモなの。  
寺田 芋、…ナガイモ。  
ナガイモはいらんかね。  
清水 あの、すみません。  
寺田 お買い上げですか。  
清水 あ、違うんですけど。  
寺田 妨害ですか。  
清水 好戦的な。  
寺田 ……  
肇 芋、…ナガイモ。  
肇 芋、…ジャガイモ。  
寺田 ナガイモはいらんかね。  
肇 ジャガイモはいらんかね。  
清水 怖い怖い。  
この空間怖い。  
ちよつと待つてください。  
寺田 何ですか。  
清水 お二人は、ライバル店みたいな感じなんですか。

寺田、清水の発言を一笑

寺田 ライバル。  
何たるな。  
お客さん、年いくつ。  
清水 65です。  
寺田 65にもなつて。  
清水 え、なんですか。  
寺田 いえ。  
そっか。  
清水 何ですか。  
寺田 誰かと競った時点で、ある意味負けだよな。  
一番競わなきゃいけないのは、自分だから。  
そう思わない。  
清水 何たる、屈辱的だな。  
何で俺、こんなこと言われなきゃいけないんだろ。  
寺田 どうですか一つ。  
清水 ちょっと商品見せてくださいよ。

寺田、アルミホイルに包まれた、ジャガイモサイズのナガイモを出す

清水 小せえ。  
長くないんだ。  
寺田 お客さん、一本で買ったらさ、余しちゃわない。  
清水 そうかもしれないですね。  
寺田 食べきりサイズ。  
清水 はあ。  
でも、何でアルミホイルなんですか。  
え、生なんですよな。  
寺田 フレッシュだね。  
清水 こつちも、フレッシュって言ふんだ。  
寺田 アルミホイルつてのはさ、紫外線をカットしてくれるからさ、ナガイモに優しいでしょ。  
清水 まともな筈だ。  
寺田 更に言えば、ナガイモ自体が、紫外線で疲れた肌に優しいしんだよね。  
そり言つた、諸々の意味を込めて、アルミホイルで包んでるんだよね、うちは。  
清水 まともだ。  
買つてしまいそうだ。  
寺田 どつかの、考えも無しにやつてることは、うち連うから。  
清水 ライバル意識たつぷりじゃないですか。  
ちなみにいくらなんですか。  
寺田 300円。  
清水 向こうより安いけど、絶対高い。  
寺田 一個どうですか。  
清水 いや、結構です。



寺田 1日にどれくらい売れるんですか。  
そうだな。

清水 700個位かな。  
そんなに売れるんですか。

寺田 今日はもう、650超えたかな。

清水 すげえ。

清水、肇を見る。悔しそう。

肇 芋、ジャガイモ。  
ナガイモよりは食べやすい、ジャガイモ。

寺田 火、入れないと食べられないでしょ。

肇 …

寺田 ナガイモ。ナガイモはいらんかね。

生でも美味しいし、火を入れても美味しい、ナガイモはいらんかね。

清水、肇の方に行き

清水 負けてますよ。

肇 負けてないし。

そもそも、負けるってなんだろうね。

清水 だって、俺、ナガイモの方買いたいですもん。

寺田、にやっ

肇 どうですか、一つ、特別に安くしますよ。

清水 いくらですか。

肇 340円でどうですか。

清水 10円しか安くなってないし。

寺田 1個280円でどうですか。

清水 あっちの方20円安くなりましたよ。

完全に負けてますよ。

肇 だから負けてないし。

負けるってことは、自分に負けるってことだから。

俺は自分と闘ってるから。

清水 それ向こうで聞きました。

寺田、にやっ。

肇 ナガイモは、皮剥く時にぬるぬるして大変ですよ。

清水 完全にへイトになってますよ。

肇 …

清水 相手のこと、落としちゃってます。  
肇 ……  
清水 負けじゃないですか。  
肇 あいつ、…悪い奴だから。  
清水 あうあ。  
肇 ……  
清水 相手にも、自分にも負けちゃいましたね。  
肇 ……

肇、崩れ落ちる

寺田 芋、…ナガイモ。  
ナガイモはいらんかね。  
清水 すみません。一つください。  
いや、1000円分ください。  
寺田 ありがとうございます。

清水、お金を払い、商品を受け取る

清水 何か、楽しかったです。  
寺田 またお願いします。  
清水 ナガイモの勝ち。  
寺田 ありがとうございます。

清水、退場

肇、立ち上がる

肇 ありがとうございます。  
寺田 良いカモだったね。  
1000円も買って行ったよ。  
肇 こっちの方が、楽しかったけどね。  
寺田 本当だね。  
肇 やっぱさ、あいつ、芋っばいもんね。  
寺田 芋っばい、芋っばい。

照明、暗転

# スパイダーマン

清水  
肇

照明 全体

舞台上、肇 椅子に座って、本を読んでいる  
清水、登場

清水

お待たせ。

肇

…待ってないね。

そもそも待ち合わせしてないしね。

何でこの場所が分かったんだろう。

清水

男かな。

肇

さらっと怖いと言ったね。

自分の持ち物、全替えしたい気分だよ。

清水

肇君は、友達いないの。

いつも一人だね。

肇

友達結構いるよ。

昨日も友達と飲んでたしね。

清水

そうなんだ。

友達、俺だけか。

肇

君とは昨日飲んでないと思うんだけどね。

清水

立ってるのもなんだから、座るね。

肇

俺が言う言葉だよ。

ずっと立ってて良いと思うし、なんだったら、この場から居なくなってくれた方が嬉しいかな。

清水

いやさ、よく言うじゃん。

田村で金、谷で金、ママになっても金です。

肇

よくは言わないんじゃないかな。

そもそもうちら、田村でも、谷でも、ママでもないからな。

清水

あ、俺の名前知ってるんだ。

肇

知らないね。

もし、君が田村だったり、谷だったら、よく言ってるのかもしれないね。

清水

俺は清水って言うんだ。

肇

じゃあ、言わないよ。

言ったら、怖いね。

清水

4・1・2・9、よろしく。

肇

良い肉だね。

よろしくにはならないかな。  
一つ聞いて良いかな。  
清水 うん。  
どうせなら3つ聞こうか。  
肇 一つで十分かな。  
清水 なんか、すごい君に興味あるみたいで、屈辱的な気分になるから。  
肇 何。  
清水 うん。  
肇 何で僕に付きまとってるのかな。  
清水 あゝ、それね。  
肇 うん。  
清水 すごく迷惑だからさ。  
肇 そうだな。  
清水 付きまとってるっていうよりは、最近ば、つきまわってるかな。  
肇 運の話かな。  
清水 この前、宝くじ10枚買ったら、300円当たってたぞ。  
肇 それは付いてないんじゃないかな。  
清水 10枚買ったら、300円当たるようになってるんだよね。  
肇 へ。  
清水 まあ、それは僕の主観だからね。  
肇 腹立つね。  
清水 その悟った感じ。  
肇 それよりさ、  
清水 僕の質問には答えてくれないんだ。  
肇 ヒーローって信じる。  
清水 なんだろ、この唐突な感じは。  
肇 あ、ヒーローって言っても、麻倉未稀が歌うヒーローじゃなくてさ。  
清水 だろうね。  
肇 歌だから、信じるも何も、あるしね。  
清水 スカールウォーズのオープニングを思い浮かべた、自分が悔しいよ。  
肇 驚くかもしれないんだけど、もしかしたら俺さ、スパイダーマンになるかもしれない。  
清水 へ、そうなんだ。  
肇 あれ、驚かないね。  
清水 そうだね。  
肇 絶対違うと思ってるし、君の発言で驚いたら、きりが無いし、何より、負けた感じがするんだよね。  
清水 勝ち負けごたわる派なんだ。  
肇 君には負けたくないかな。  
清水 でもあれだね、僕がスパイダーマンで、君が悪者だったら、絶対に負けるよ。  
肇 なんだろ、今の仮定は全く成立してないのにも関わらず、腹が立つね。  
清水 どうしよう、俺、スパイダーマンだったら。  
肇 100パー無いと思うけど、何でそう思うの。

清水 この前さ、歩いてたら、肩にね、蜘蛛がいたんだ。  
肇 ……  
清水 ……  
肇 それだけ。  
清水 うん、それだけ。  
肇 すごい、損した気分。  
清水 どうしよう、スパイダーマンになったら。  
肇 絶対にならないから、安心して良いんじゃないかな。  
たまたま肩にいただけだと思うし。  
清水 でもさ、スパイダーマンってアメリカじゃん。  
こゝ日本だから、蜘蛛男って呼ばれちゃうかな。  
格好悪いね。  
肇 格好悪いの前に、怪人になっちゃうね。  
蜘蛛男って、仮面ライダーとかの敵だよ。  
ヒーローじゃなくて、悪者になってる。  
清水 やつぱりさ、コスチュームは、赤と青かな。  
肇 何でも良いんじゃないかな。  
清水 じゃあ、俺は黒と黄色かな。  
肇 まんま、その辺で見る、毒々しい蜘蛛の色だね。  
人気でないんじゃないかな。  
清水 そっか。  
肇 じゃあ、赤と黒かな。  
肇 黒は外した方が良いんじゃないかな。  
リアリティー追及し過ぎてる気がする。  
清水 じゃあ、赤と青にするよ。  
肇 その方が良いかもね。  
清水 後は、あれだね。決め台詞。  
肇 決め台詞。  
清水 月に代わってお仕置きよ。みたいな感じで。  
肇 客層が分からなくなってるね。  
清水 あ、思い切つて、セーラー服着るのも良いかもね。  
肇 無しじゃないかな。  
清水 無しかな。  
肇 無しだと思つよ。  
更に言えば、決め台詞もいらないと思う。  
清水 決め台詞いらない。  
肇 いらないね。  
清水 じゃあ、後はポーズだけだね。  
肇 ポーズ。  
清水 じゃあ、ちよつと考えてきたから、やってみるよ。  
肇 もちろん、今、この場でやるってことだよな。  
清水 そうだね。

肇 今回の状況で、他人だって、説明するにはどうすれば良いんだろう。

清水、立ち上がり  
スパイダーマンの掛け声とポーズ

清水 どう。

肇 何だろ、知り合いだと思われてると思うよ、本当に恥ずかしいよ。

清水 そんなことはどうでも良いから、俺が考えてきたポーズ。

肇 そういふ人だよな。

清水 どうだった。

肇 蛇だったね。

蜘蛛じゃなくて、蛇だったよな。

清水 駄目か。

肇 駄目だと思う。

清水 まあ、もう少し考えるよ。

肇 考えても良いけど、俺に見せないで欲しいな。

清水 あ、時間だ。

帰らなきゃ。

またね。

肇 またあるんだ。

清水 次の人のとこ行かなきゃ。

肇 え。

清水、退場

肇 次の人。

照明、暗転

了

## 師匠

ツカサ師匠

ハジメ師匠

弟子

照明 全体

袖から

弟子 師匠入ります

おはようございます。

司 おはよう。

肇 はい、おはよう。

弟子 こちらになります。

司 おう、今日もよろしくな。

肇 よろしくお願ひします。

弟子、ツカサ師匠、ハジメ師匠の順に登場

ツカサ師匠 椅子に座る

ツカサ師匠 基本、何言ってるか良く分からない

弟子 あれ、椅子一つしかないんで、もう一つ探してきます。

肇 ああ、良い良い。

弟子 いや、でも。

司 良い良い。

椅子がなまきや、床に座れば良いんだよ。

な。

そうだと。

な。

肇 本当そうだと。

ハジメ師匠、床に正座する。

弟子 ハジメ師匠、良いんですか。

司 良いんだよ。

俺らはそんなの気にしねえんだから。

そんな小ぢなこゝろにしている奴はな、小ぢな事しかできなないんだよ。

な。

肇 本当そうだと。

弟子 はあ。

司 お前も、そういうことちゃんと覚えとけ。  
な。

肇 本当そうだ。

弟子 ありがとうございます。

ツカサ師匠、めつちや扇子で仰いだり

弟子 あ、師匠、何か飲みますか。

司 ああ、そうだな。

うん、何か飲むか。

な。

本番中にな、喉乾いて、喋れないと駄目だしな。

な。

肇 本当そうだ。

弟子 何飲みますか。

司 何飲むかじゃねえだろ。

お前、何年、俺らに付いてんだよ。

弟子 すみません。

司 ブラコーだよ。

ブラコー。

弟子 ブラコー。

司 ブラシコだよ。

弟子 ブラシコ。

司 ブラシコだよ。

な。

ハジメ 本当そうだ。

弟子 分かりました。

司 何でブラシコだと思っ。

弟子 ちよつとわかんないですね。

司 甘い飲んでると、舌が甘くなるんだよ。

弟子 え。

司 舌が甘くなる。

な。

肇 本当そうだ。

弟子 はあ。

司 な。な。な。

うちら若い頃なんてな。

師匠からな、羊羹とか甘いものとか、駄目だつてな。

そんなもの、売れてからだつて、師匠がな。

な。

肇 本当そうだ。

司 もう、本当な。



女と甘いものは「法度」に「法度」  
な。

肇 本当そうだ。

司 分かってんのか、お前。

弟子 え。

司 分かってんのか、お前て。

弟子 あ、はい。

そうだと思います。

司 よし、じゃあ、これで買ってこい。

お前の分もな。

司、財布から、もの凄い額を渡す

弟子 多くないですか。

司 良い、良い。

弟子 でも、缶コーヒーですじ。

司 良い良い良い。

師匠ってそんなものなんだから。

な。

肇 本当そうだ。

司 うちの師匠もそうだった。

な。

肇 本当そうだ。

司 行ってこい。

弟子 え。

司 言ってこい。

弟子 ありがとうございます。

弟子、買いに行く

司 この前よ。

導り局の番組に俺出てたろ。

肇 本当そうだ。

司 どうだった。

ウケてたたる。

な。

肇 本当そうだ。

司 それは別に良いんだ。

まあ、当たり前だから。

俺、ちよいつてやつたら、どっかんどっかんだからな。

な。

肇 本当そうだ。

司 それは良いんだけど、一緒に出てた若い女、駄目だな。

肇 本当そうだ。

司 今の若い奴、挨拶出来ねえ。  
駄目だ。

肇 本当そうだ。

司 挨拶は基本だからな。

肇 本当そうだ。

司 挨拶は、ちゃんとしなまやな。

肇 本当そうだ。

ツカサ師匠 段々近くなる

司 俺はよ、挨拶出来ねえ奴はよ。絶対消えていくと思っつものよ。  
そう思っつたる。

肇 本当そうだ。

司 誰か言わなまやいけない。

肇 本当そうだ。

司 小さいことをちゃんと言わないとな。

肇 本当そうだ。

弟子、戻ってくる

弟子 お待たせしました。  
すみません、ブラコ無かつたんで。

司 ブラコ無いつてどういふことだよ。

弟子 いや、でも、本当に無かつたんで。  
すみません。

司 ブラコ無い、販売機つて何だ。  
ブラコはあるだろ。

肇 本当そうだ。

司 まあまあまあ、ねえものはしょうがない。  
ねえものは買って来れない。

それは確かだ。  
な。

肇 本当そうだ。

司 今度、社長に言っとく。  
どうなつてんだつてな。

肇 な。  
：

ハジメ師匠 缶コーヒーを眺める。  
飲もうとするが、どう飲んで良いか分からない。

司 なんだ お前。  
どう飲むか、わかんねえのか。  
カッとやっつて、くつと飲むんだよ。  
な。

弟子 まあ、そうですね。

司 カッとやっつて、くつと飲むんだよ。  
な。

肇 本当そうだ。

ハジメ師匠 缶コーヒーを諦めて、置く

司 そうだそうだ。  
冷蔵庫によ、プリン入ってから、プリン持ってきてい。

弟子 プリンですか。

司 持ってきてい。  
貰った奴だから、持ってきてい。

弟子、袖からプリン持ってくる

弟子 これですね。

司 それだそれだ。  
昨日、共演者から、みんなで食おう。  
お前も食え。  
な。

弟子 ありがとうございます。

ツカサ師匠 ハジメ師匠 弟子、それぞれプリントスプーンを持つ

ツカサ師匠 何か言いながら、適当に食う。

弟子、はい。ありがとうございます。等々言いながら、プリンを普通に食べる

ハジメ師匠 食べ方が分からず、見る。

司 なんだ お前。  
どう食うのか、わかんねえのか。  
カッとやっつて、ぐつと食うんだよ。  
な。

弟子 まあ、そうですね。

司 カツとやつて、ぐつだよ。

ハジメ師匠 蓋を開け、ぐつと飲み干す

司 肇 本当そうだ。

司 うめえたら。

な。

司 肇 本当そうだ。

司 そうだそうだ。

お前 お前

弟子 なんですか。

司 俺この前よ、劇場行った。

弟子 え。

司 劇場。

劇場。

弟子 師匠、劇場行ったんですか。

司 最近の若い駄目だ。

弟子 え。

司 駄目だ駄目だ。

全然駄目だ。

あれ、駄目だ。

弟子 駄目でしたか。

この辺りのやりとり中に、ハジメ師匠 シカサ師匠のプリンを取り、飲み干す

司 何言つてんのか、全然わかんねえ。

な。

司 肇 本当そうだ。

司 何言つてかわかんねえ。

それが流行りなのか分かんねえけど

何言つてかわかんねえ。

それじゃ、駄目だ。

な。

司 肇 本当そうだ。

司 どんな笑いで、伝わんなきゃ駄目だ。心にグッど。

な。

司 肇 本当そうだ。

司 分かるべ。

な。

弟子 はい。

肝に銘しておきます。

弟子、時計を見る

弟子 あ、師匠 ぼろぼろ時間です。

司 うん。

分かった。

行くか。

摩 な。

本当そらだ。

ツカサ師匠、ハジメ師匠、退場

弟子 何言ってたんだろ。

照明、暗転

了